

平成30年度 未就学児の体力向上推進事業

～専門指導者派遣事業：実施園(所)の報告書より～



島根県教育庁保健体育課

未就学児の体力向上推進事業の一つとして、今年度「専門指導者派遣事業」を実施した出雲市内18の幼稚園、保育所の実施報告書をまとめました。

本事業の対象となった園・所に限らず、多くの関係者が日頃の実践を振り返ることにより、

- ① 多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れる
- ② 楽しく体を動かす時間を確保する
- ③ 発達の特性に合った遊びを提供する

という「幼児期運動指針」の3つのポイントを念頭に置き、日常における取組が一層充実していくことを期待しています。

■ 対 象 年長児 ※規模によっては年中児・年少児も参加。1園は年中児のみ。

■ 実施園(所)・対象児数 (人)

園[所]名	年長児	年中児等	園[所]名	年長児	年中児等
今市幼稚園	24	—	荒木幼稚園	23	—
大津幼稚園	24	—	出雲乳児保育所	16	—
塩冶幼稚園	37	—	出雲聖園マリア園	27	—
四絡幼稚園	45	—	一の谷保育園	20	—
高浜幼稚園	11	15	きんろう保育園	—	20
上津幼稚園	5	2	すぎの子保育園	19	16
東幼稚園	14	20	光幼保園	24	23
湖陵幼稚園	17	—	たいしゃ保育園	21	22
大社幼稚園	20	14	あい川保育園	15	—

■ 派遣指導者 NPO 法人ジョイナススポーツクラブ

< 理 念 >

主にスポーツ教室・講師派遣を主軸とし、幼児から高齢者・障がい者までを対象としたスポーツの啓発・普及活動を行い、精神の高揚と健康の増進ならびに体力の向上を目指すとともに、スポーツ指導者の育成事業やスポーツ競技力を促進することにより、地域社会全体の発展に寄与する。

< 実 績 >

- ・出雲市内幼稚園、保育所への指導者派遣及び研修講師
- ・H28～29年度、本事業を松江市内の幼稚園等で実施
- ・鳥取県「子どもの体力向上プロジェクト」への指導者派遣 など

■ 主な指導内容 ※ 対象園(所)で各2回の指導

共 通	・各園(所)が行う導入 (W-up) に対する指導、助言
1 回目	・体幹を意識した動きの組み合わせ及び指導方法 ・『ぼーんボード』による多様な体の動きの体験及び習得方法 ・各園(所)にある器具や用具を活用した環境構成の工夫 ・跳び箱、マット、鉄棒などの基本技術の習得に向けた指導、場づくり
2 回目	・1回目の内容のおさらいと発展的な運動動作の指導、補助方法 ・運動を日常に取り込むための工夫、カリキュラムへの助言

考察

1 専門指導者派遣前後の比較

(1) 幼児の日常の運動遊び [活発になった／変わらない／不活発になった]

⇒全ての園・所が『活発になった』と回答。

- ◎ 専門指導者の訪問という『特別感』があり、提供されるプログラムも新鮮だったことが子供たちの運動遊びに対する興味や挑戦意欲を呼び起こしたと思われる。また、2回目に向けての宿題が課されたことも担任による日常的な働きかけを促し、全体的に運動に対するムードが高まっていったと推察される。

(2) 教員・保育士の運動遊びに対する意識 [高まった／変わらない／下がった]

⇒全ての園・所が『高まった』と回答。

- ◎ 集合型の研修とは異なり、現場で実際に専門的・具体的な指導方法を見聞し、直接指導（補助）した手応えが職員の意識を高め、その後の実践につながったと考えられる。子供たちの変化に呼应するように、日常生活の中に意図的に運動遊びに取り組みさせた例が多く報告された。

2 指導内容について（担当者の所感）

- ▶ 各園(所)の遊戯室の広さや所有している教具・用具等に応じた活動が展開された。
- ▶ 「鉄棒の逆上がりには W-up でのスキップのリズムと体勢が有効」など、各活動に連動性をもたせ、それぞれを大切に実践する意識を高めようとしていた。
- ▶ 準備や片付けを全員で行ったり要所で約束事を確認したりして、専門指導者がプログラム全体をコントロールしていた。
- ▶ 各種目（跳び箱・マット・鉄棒など）について基本的な指導をした後、サーキットによる連続的な活動に移行し、子供たちを飽きさせなかった。
- ▶ 指導のポイントを『オノマトペ』で伝えたり、姿勢や動作を動物などに例えたりして、子供にもイメージしやすい工夫があった。
- ▶ 意図的にペアやグループで行わせる場面もあり、独りでは超えられない粘り強さや達成感などがうかがえた。
- ▶ 専門指導者は終始『ポジティブワード』による指示や称賛の拍手、評価言を発しており、子供たちに自信と意欲の好循環が生まれ、気持ちよく活動に取り組む姿が見られた。
- ▶ 専門指導者は、指導の引き出し [レパートリー] や、それぞれの動きを体得させるための指導技術 [バリエーション] が豊富で、子供たちの実態に即した内容を提供していた。

3 今後の展望など

事前調査では、「体幹」「姿勢」「持続力」「個人差」「経験不足」といった言葉で子供のマイナス面が指摘されていたが、それらを打開するきっかけとして本事業は有効であったと思われる。

実施後には、「運動嫌いを生まないように、プレ・ゴールデンエイジの今こそ運動遊びによる様々な体験が重要だ」「個々を大切にする指導と表裏一体で、集団の力や社会性なども養っていきたい」といった感想もいただいた。

指導のスキルアップもさることながら、実態を見取る力、特別な支援が必要な子供（を含んだ集団）への関わり方、情報の共有、保護者への啓発など、今後も共に研修を重ねていきたい。

	子供の变化 (成果○と課題▲)	教員・保育士の変化 (成果○と課題▲)
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉄棒（前回り・逆上がり）、マット（側転）、跳び箱（開脚跳び）の技のポイントをわかりやすく教えてもらったことで、手の着き方、足の動かし方など、どのようなことに気を付けるとよいか、自分で意識しながら取り組む姿が見られるようになった。 ○ スモールステップで行うことで、できるようになったことを子供たちが実感し、「○○ができるようになりたい」と楽しみながら自分なりのめあてをもって取り組むようになったと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 技の習得に向けて、子供たちの身体の動きを捉えながら段階を踏んで指導することが大切であることを学んだ。また、このように細やかに指導することが安全面への配慮にもつながることを実感した。 ○ 手の着き方や足の動かし方について、フープや跳び箱など用具を用いながらわかりやすく指導することや、補助の仕方について学んだことで、子供たちにどのようなことを意識させるのか、具体的に言葉をかけることができるようになった。 ○ 技を習得させるために必要な体の動きについても学び、日頃から器具を使わなくてもいろいろな動きを取り入れ、楽しむことが大切であることを実感した。 <p>▲ 職員間で情報を共有し、学んだことを活かせるようにしていきたい。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門的な知識や技能をもった方に指導していただいたことで、いろいろな運動に段階を踏んで挑戦することができた。 ○ 縄跳び、跳び箱、鉄棒、側転などを指導していただいたことで、子供たちも方法がわかり、日々の遊びの中で少しずつ挑戦していた。できるようになったことは一人一人異なるが「やってみよう」という気持ちや新しい技を知る経験になった。 <p>▲ 体幹が弱い子供が多いように感じている。日々の遊びの中で、もっと全身を使うような遊びを取り入れながら支えていく必要があるように思う。</p> <p>▲ 指導を受けた直後は子供たちにも意欲があり、「昨日教えてもらった逆上がりやってみよう」という感じであったが、日数が経つとやらなくなってしまふ子供の姿があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ケガにつながりやすい箇所、安全面を配慮した指導法を実際に見たり、子供を指導している場面で支え方を教えていただいたりしたので、その後の保育の中での実践がスムーズであった。 ○ 1回目の指導後から、子供たちも鉄棒やボールを投げる・取ることを好んでするようになり、チャレンジタイム（縄跳びや鉄棒などに挑戦する時間）やドッジボールを好んで行うようになり、指導していただいたポイントを都度、子供たちに指導した。 <p>▲ 遊びの時間に子供たちが挑戦することを支えているが、今回のプログラムのような時間を設け、子供たちが楽しみながら体力の向上を図ることが継続してできない。</p> <p>▲ 見つけた遊びの中で、指導を受けた遊び・運動を継続できる環境が用意できていないのも課題として感じている。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動遊びへの関心が高まり、これまであまり興味を示さなかった子供も、自分なりに目当てをもって取り組むようになった。跳び箱や鉄棒など、できないことに繰り返し挑戦する姿も見られた。 ○ 教えていただいたことが子供たちの刺激となり、運動遊びへの興味関心が高まっていた。 <p>▲ 一つ一つの動きが押さえ切れていないところがあるため、体幹を鍛える動きとしてきちんと身に付けさせていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門指導者から補助の要点を教わることができたり、動きの種類が増えたりした。運動遊びへの取り組みせ方を実際に見ることで、自分たちもサーキットを作って遊んだり、集まりの時に体幹を鍛える動きの一つ取り入れたりと、実践しやすかった。 ○ 指導者が要点を教えてくださいましたことで、実践する時に気を付けることを意識して指導に当たることができた。また、子供たちの興味関心が高まるよう、一緒に器具を運んで準備や片付けをすることも大変参考になった。 <p>▲ 今後も継続して子供の運動遊びへの興味関心を高めていきたい。また、教師自身も身体を動かし、運動する楽しさを子供たちに伝えられるようになっていきたい。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門の講師を招き、子供たちもどんなことをするのか活動前から期待をもっていた。全員で縄跳びや鉄棒などに取り組み、ふだんは自分から動かない子供も取り組むことができた。 ○ 鉄棒や跳び箱には特に興味をもち、もっと高い段を跳びたい、逆上がりができるようになりたいなど、自分なりのめあてをもって取り組む姿勢につながっていった。発表会でもそれらを発表し、子供たちにとって自信となった。 <p>▲ 園児数が多いためにクラスごとに実施してもらったが、想定していたプログラムの時は時間が足りなかったのではないかと感じた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉄棒や跳び箱では、どのポイントを押さえたらよいか、どのように補助すると危険や恐怖心なく取り組めるかなどを知ることができた。 ○ 全員で活動することで運動遊びにより興味をもつようになり、子供たちの気持ちを高めながら発表会に向かっていくことができた。 <p>▲ 2回実施してもらったことができたが、他の行事も多く入る時期なので、早めに日程調整しておくことが必要だと思う。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回目に行った縄跳び運動を次回までにしっかり練習するという課題ももらったことで、特に年長児は冬休みの間、自主的に練習する様子が多く見られ、子供の意識は高まった。 ○ 子供の方から「マットのあれ（側転の練習）がやりたい。」と云ってくる姿が見られ、運動遊びを楽しんで行えたことが感じられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次回までの課題を与えられたことで、意識して保育に取り入れることができた。 ○ 2回目の鉄棒、マット運動の練習の際、サーキット的な場を構成して行ったことで子供たちのワクワク感が増したため、日常の保育でもそれを活かした運動遊びを行うことができた。 ○ 時間の制限があったことで、次時への移行がスピーディだったが、そうしたメリハリのある活動が子供の意欲にもつながったと思う。 ○ 現場では子供の運動技術を上げることはもちろんだが、それ以上に運動遊びを楽しんでできるような保育を展開することが大切である。今回指導いただいたことは大変有意義であった。来年度も実施できたらよいと思う。
6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初めてだったが、楽しく取り組めるような言葉がけや活動内容の工夫がたくさんあり、子供たちはとても楽しく参加できた。 ○ 3学年混合クラスだが、それぞれの学年に合った内容で指導していただいたことで、最後まで全員が楽しむことができた。 ○ 教えてもらったことを、朝の体操の時間に取り入れることでその成果が表れ、逆上がりや前回りができる子が増え、それが子供たちの喜びや自信となり、もっとやってみようという意欲につながった。今後も継続して取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導を受けている間、子供たちがずっと楽しそうに集中して取り組んでいる姿が印象的だった。体を動かすことの楽しさや喜びを感じるための環境構成や教師の役割、支援の方法等を学ぶことができた。 ○ 教師も何となくではなくて、目当てや目標を子供たちと一緒にもち、継続して取り組むことができたと思う。 <p>▲ 今回教わることができなかった運動遊びの補助の仕方や、子供たちが楽しんで取り組める工夫などを学ぶことで、子供に伝えていきたい。</p>

	子供の変化 (成果○と課題▲)	教員・保育士の変化 (成果○と課題▲)
7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動遊びに積極的に取り組む子供が増え、鉄棒や跳び箱に自ら向かおうとする姿が多く見られるようになった。 ○ 身体の使い方がわかり、逆上がりができるようになった子供が数人いた。 ○ 「次来るまでに△△をしないとね」と言っていたので、子供が自分で目標をもって取り組むことができた。 ▲ 個人差が大きく、喜んで取り組む子供とそうでない子供に分かれてしまう。 ▲ 運動遊びに対する意欲が続きにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉄棒や跳び箱などの指導方法を教えてもらったことで、子供に助言や補助をすることができた。 ○ 準備運動(運動器具を使わないもの)の方法を教えてもらったことで、生活の中で子供と共に実践することができた。 ▲ 園行事や園での生活と、運動遊びを取り入れるバランスが難しく、子供にたくさんの体験をさせることが難しい。
8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 的確な指導や補助などにより、鉄棒や跳び箱などが少しずつ上達してきた喜び、できるようになった達成感などを味わうことができ、運動遊びへの意欲を高めたり、自信を深めたりすることができた。 ▲ 幼児期にいろいろな動きを身に付けていくことが、小学校以降の運動・スポーツに対する意欲を高めていくことにつながっていくと考える。遊びの中で多様な動きを身に付けていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 段階に応じた指導方法を知ることができ、子供一人一人に適切な指導を行うことができるようになった。 ▲ 鉄棒ができるようになる、跳び箱が跳べるようになる、といった結果ばかりを見るのではなく、それを支える基礎的な動きを子供が身に付けていけるように、子供が楽しさを感じる遊びの中で多様な動きを経験できるようにしていきたい。
9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達に合わせ、投げる・跳ぶ・回る・支えるなど“36の基本的な動き”を取り入れ、多様な動きが体験できるよう場を構成したり遊びを指導して下さったりした。そのため、楽しんで取り組む中でいろいろな動きを身に付け、前向きに活動する姿が見られた。 ○ 第1回・第2回と指導して下さったことを取り入れながら繰り返し楽しむ中で、意欲的に運動遊びに挑戦しようとする姿や、“できた!”“またやってみよう”と達成感を味わう姿、ふだんの生活の中で体育座りで体を維持して座る姿などが増えてきている。 ▲ 発達に合わせ、“36の基本的な動き”を遊びや生活の中に取り入れながら、体を動かす楽しさを感じたり体づくり(体幹を鍛える)をしたりできるよう、引き続き取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供たち一人一人に合わせ、その子ができている部分、こうすればもっと良いというポイントなどを丁寧に教えてくださり、教師の声掛けの仕方や指導のポイントなどを具体的に学ぶことができた。 ○ 体幹につながる動きや迷路(サーキット)遊びでは、“ゆりかごの動きが体を支える力につながる”“サーキット遊びをすることで、一つの動きに特化するのではなく、多様な動きを一度に楽しむことができる”など、この動きを通してどういった力を育てているのか、36の動きをどのように遊びにつなげていけばよいかなど、ポイントとなる部分を教えていただき、実践につなげていくことができた。 ○ 保護者の方からは「今まで鉄棒に興味がなかったのに、公園で自分から鉄棒で遊ぶ姿が見られた」「今日、跳び箱跳べたよ」ととても嬉しそうに知らせてくれて、楽しかったんだと私も嬉しくなった」などの感想をいただいた。 ▲ 可能であれば、指導者が2人来てくださり、一人が全体の活動を進め、もう一人が職員にポイントを指導して下さると、よりスムーズに安全に活動が行えるのではないかと感じた。 ▲ 保護者の方ともこうした活動を共有しながら、園だけでなく家庭でもいろいろな遊びを楽しんだり親子でも触れ合いにつなげていったりできればと思う。 ▲ 引き続き多様な動きを楽しみながら、どのように子供の姿が変容していくかを捉え、成果と課題を明確にして今後の活動につなげていきたい。
10	<ul style="list-style-type: none"> ○ タイミングがわからず、跳び箱を跳び越すことができなかったが、平均台で練習した後はタイミングの取り方がわかるようになり、自分から跳び箱遊びに向かう子供が増えた。 ○ 前転のやり方を教えてもらったことで、できる喜びを感じて繰り返しマット遊びを楽しむ子供が増えた。 ○ 体を動かす楽しさを感じて、できないことにも挑戦しようとする子供が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供たちが楽しみながら運動遊びを続けるための環境構成や言葉掛けなどを学ぶことができた。 ○ 教えていただいたやり方で子供の体を支えることによって、鉄棒遊びや跳び箱遊びに興味を持ち、取り組む子供が増えた。 ○ いろいろな運動遊びをする前に、柔軟性やリズム感も必要であることを再確認することができた。 ▲ 楽しく体を動かす遊びを日々の生活の中に取り入れていかないといけないと感じる。
11	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動遊びがあまり好きでなく、苦手意識が強かった子も楽しく活動に入ることができ、抵抗なく意欲をもって取り組むことができた。(青木先生が来られることを楽しみにしていた。) ○ 基礎の動きを学び、自分なりの達成感を得ることができた。 ○ 運動会に向かって意識を高めているところもあるが、「こうしたい、こうなりたい」と目標をもって活動に取り組む姿が見られるようになった。 ○ 発達段階に沿った動きができない子の運動への意欲向上が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供の体幹の弱さや運動遊びの基礎、発展の仕方など日々の保育に課題が多い中、段階を踏んで基礎を押さえ、具体的な補助の仕方を教えてもらい、実践に活かすことができた。 ▲ 小さい月齢から年齢に合った運動遊びを経験させていく必要性を再認識するとともに、保育士自身のスキルアップとして、もっと知識を深めていきたいと感じた。 ▲ 定期的に指導を受けていきたい。
12	<ul style="list-style-type: none"> ○ 跳び箱や鉄棒などに抵抗なく挑戦することができた。 ○ サーキット風にもなったことで、待ち時間も少なくモチベーション高く取り組めた。運動会に向けてのやる気にもつながったと思う。 ○ 『ぼんボード』も面白く、興味を引かれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 跳び箱で、手が滑って前方に落ちてしまう子がいて、ケガをしないかヒヤヒヤすることがあったが、跳び越す際に前を見ると手を滑らせる子がいなくなり、安心して見守れた。ポイントを教えてもらって良かった。 ○ その後の運動会に向けて役立つ内容だった。

	子供の变化 (成果○と課題▲)	教員・保育士の変化 (成果○と課題▲)
13	<p>○ 運動器具に触れる機会が増え、運動遊びが好きになった。</p> <p>○ 運動遊びの環境設定が整い、保育者も個々に合わせた指導を心がけたため、目に見えて子供たちの成長をたくさん感じた。小さな目標を明確に設定し、「もう少しできそうだな」の体験ができていたため、向上心も高まり、充実した活動となった。</p> <p>▲ 今後も運動遊びの積み重ねを大切に、年長児に向けて引き続き運動を取り入れていきたい。</p> <p>▲ 縄跳び、跳び箱4・5段、逆上がり、側転も課題であるが、体幹を鍛えることや体力づくりも工夫しながら行っていきたい。</p>	<p>○ それぞれの運動に必要な身体の動きを知り、導入の方法も工夫できるようになった。</p> <p>▲ それぞれの年齢に合った運動目標は設定しているものの、具体的な指導ができていなかった。</p> <p>▲ 「おしいね」「もうちょっとできそうだね」という言葉だけで繰り返し練習させてしまっていたが、細かく言葉で伝え、一人一人に合わせた補助ができるようにしていきたい。</p> <p>▲ 保育者の遊びの設定方法と意識で子供の姿と向上心は変わるので、園全体で共有していきたい。</p> <p>▲ あまり側転を取り入れていなかったのが、今後しっかり取り入れていきたい。</p>
14	<p>○ どの運動も楽しみながら取り組む中で、体を動かすことの楽しさや継続して取り組もうという気持ちにつながり、子供たちの意欲が向上した。</p> <p>○ できるようになったことへの喜びや達成感が大きく、友だち同士で励ましたり教え合ったりし、体を動かすことに苦手意識があった子も自主的に体を動かすようになった。</p> <p>▲ なかなか成果や上達につながらない子は、意欲が湧いてこないのが、楽しんで取り組めるようにしていく。</p>	<p>○ 具体的な指導方法や用具の使い方、補助の仕方を教えていただいたことで、指導の仕方や工夫で子供たちがこんなにも意欲的になり、上達することがわかった。</p> <p>○ 日々の活動や、少しの時間でも取り入れやすくなり、運動遊びの幅が広がった。</p> <p>○ 用具の出し入れや場の設定など、子供主体ですることが意欲や自信にもつながることを実感し、日々のいろいろな場面でも同じように子供の主体性や自主性を大切にしようと思っけた。</p> <p>▲ 今後も継続して取り組めるよう、時間の確保をしていかなければならない。</p> <p>▲ 研修を受けられなかった職員にもしっかりと伝え、園全体でそれぞれの年齢に合った運動遊びを積極的に取り入れていきたい。</p>
15	<p>○ 前年から月1回体育教室を行い、鉄棒や跳び箱に取り組んできたが、恐怖心からどうしても挑戦できない子がいた。今回、恐怖心をなくすような練習方法を教えていただいたことで、前回り降りや跳び箱に意欲的に挑戦し始め、現在は全員の子供ができるようになった。</p> <p>▲ 子供たちの姿勢の崩れやバランス感覚が課題。園では雑巾がけを行っているが、日頃の活動に「ぼーんボード」を取り入れて、もっと体幹トレーニングをしていきたい。</p>	<p>○ 教えていただいた鉄棒や跳び箱の練習方法を日頃の運動遊びや体育教室に取り入れた。その結果、より中身の濃い時間となり、子供たちに達成感や満足感を味わわせることができるようになった。</p> <p>○ 正しく安全な補助の仕方も教わり、補助の方法を変えたことで新しいことに安心して挑戦する子供が増え、どんどんできるようになってきている。補助の仕方一つで、子供たちが安心して運動遊びに挑戦することがわかった。</p> <p>▲ もっと運動遊びを取り入れたいが、時間の確保が難しい。</p>
16	<p>○ 体を動かすことが得意ではない子供が多いクラスだったが、コツや練習の仕方を教わったことで、今までできなかったことができるようになり、意欲をもって取り組めるようになった。</p> <p>▲ 指導を受けたのは年長児であるため、年中児・年少児にも指導内容を伝え、引き続き取り組んでいくことが課題である。</p>	<p>○ 子供たちと関わりながら行うので、補助のポイントやコツがとてもわかりやすかった。親子参観日などでそうしたことを保護者に伝えると、家庭でも運動遊びに取り組んでもらえるようになった。</p> <p>▲ 職員の運動遊びに対する意識改革が課題である。</p>
17	<p>○ 子供たちは指導の先生に憧れを抱き、「あんなふうになりたい」という思いから、より積極的に自分から運動に取り組むようになった。</p> <p>○ 「できる」「できない」ではなく、楽しくできるようになり、運動が苦手だった子も自然と運動の輪の中に入るようになった。</p> <p>○ 専門指導者に教えていただくことで、コツをつかんだりして吸収も早く、できるようになったことで自信にもつながった。</p>	<p>○ 今まで専門の知識がない中で取り組んでいたのが、声のかけ方やサポート(補助)の仕方などをきちんと教えていただいたことが良かった。</p> <p>○ 鉄棒の逆上がりで、「上にあるボールをけるイメージで」と教えていただき、実際に上からボールを吊るしておく蹴るコツがつかめ、逆上がりができるようになった子もいた。</p>
18	<p>○ 子供たちは意欲的に楽しく取り組んだ。毎日の保育の中で意欲をもって取り組み、クラス全体で「運動会の逆上がり」が一つの目標になった。いろいろな心情を乗り越えながら、ほとんどの子供たちは逆上がりができるようになり、次の目標をもって取り組む楽しさを味わうことができた。</p> <p>○ ほかに様々な運動遊びを経験することができたことで日々の遊びが活発になり、体力も持久力もついたと思う。</p>	<p>○ 年長担当として興味深く意欲的に参加した。指導方法がわかりやすく、その場でその子に合った的確な指導方法を教えていただいたので、以降の保育の中で活かすことができ、大変参考になった。</p> <p>▲ 基本を学ぶことの大切さを知ったが、保育士はいろいろな分野を幅広く学ぶ必要があり、それを共有する難しさを感じる。</p>

平成30年度 未就学児の体力向上推進事業

専門指導者派遣事業 実施要項

1 目的

- 専門指導者を派遣し、年長児に対して発達段階に適した好ましい運動習慣のきっかけづくりや体力向上推進に向けた多様な動きを経験する運動遊びを提供することで、運動遊びへの興味・関心を高めるとともに、小学校入学以降に体育の授業に苦手意識をもたせないようにする。
- 幼稚園・保育所等で実践を行うことで、教員、保育士の研修の場とし、資質の向上を図る。

2 主催 島根県教育委員会

3 対象 出雲市内幼稚園・保育所等

4 会場 各園（所）遊戯室

5 期間 平成30年5月下旬～平成31年3月中旬 ※実施可能な日時は別紙のとおり

6 派遣数 全36回 ※同一園（所）に少なくとも2回以上

7 内容

(1) 対象

幼稚園・保育所等の年長児及び教員・保育士 ※施設規模によっては年中児と合同可

(2) 指導内容

- ① 各園（所）で行っている運動遊び（ウォーミングアップ等）への指導・助言
- ② 専門指導者による各種運動遊びとその指導方法

(3) 検証方法

教員・保育士対象に行う意識調査等から効果を見る。

8 講師

特定非営利活動法人ジョイナススポーツクラブ

<活動目的>

主にスポーツ教室・講師派遣を主軸とし、幼児から高齢者・障がい者までを対象とした、スポーツの啓発・普及活動を行い、精神の高揚と健康の増進ならびに体力の向上を目指すとともに、スポーツ指導者の育成事業やスポーツ競技力を促進することにより、地域社会全体の発展に寄与する。

<実績>

- ・島根県「運動好きな子どもを育てるプロジェクト」への指導者派遣
- ・鳥取県「子どもの体力向上プロジェクト」への指導者派遣 等

9 実施の流れ

4月25日…希望調査票提出締切（幼稚園・保育所等→出雲市保育幼稚園課→県保健体育課）

5月上旬 …選考・調整

※希望数が派遣枠を超えた場合、地域性や幼稚園・保育所等のバランスを考慮して派遣先を決定する。

5月中旬 …決定通知（県保健体育課→出雲市保育幼稚園課→幼稚園・保育所等）

5月末から…事業実施

10 その他

保幼小の連携を推進するため、実施園（所）より近隣の幼稚園・保育所、小学校に周知する。